

大原社会問題研究所五十年史

III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

各種講習会の開催

一九三五年 昭和一〇年 一九三五(昭和一〇)年も前年にひきつづき社会統計学院主催の講習会と語学ゼミナールが開講された。二月には、森戸研究員立案による協同組合講習会(二月一日―二八日)があり、第一日に高野氏の「家計調査と協同組合運動」の講義がなされた。二月五日から、木村和三郎商大助教授を講師とする簿記講習会が、また五月には松田泰治郎氏らを講師とする人口問題講習会が開かれた。そしてこれらの講習会にはいずれも二、三〇名から五、六〇名の聴講者があった。

さきに研究所を辞職した細川嘉六氏は、一九三五年一月より復職し、一月一〇日の委員会に出席した。三月一四日には鈴木鴻一郎氏が助手に就任し、同月二〇日、研究生碓正夫氏が大阪商大助手に内定した。

また従来大阪における委員会は、高野、森戸、久留間、大林の四名をもって毎週一回定期に開かれて来たが、一月一〇日より、復職した細川氏と後藤、笠、内藤、鷹津(のちに鈴木)氏を加えた拡大研究員会も開催され、所内重要事項の協議にあずかった。

四月二〇日には研究員総会が東京渋谷・代官山アパート内の高野事務室で開かれた。出席者は高野、細川、権田、久留間、大林、大内、後藤、笠、鷹津、内藤の諸氏で、午後は全員で故榎田氏の墓参をした。当日の総会においては、雑誌その他出版物発行の件、社会問題講演会開催の件など数件が協議決定された。

社会問題講演会は社会統計学院主催で、一〇月二八日から十一月二二日まで、毎週、月水金曜六時半から研究所員を講師として開催されたもので、科目と講師名はつぎの通りである。

一〇月二八日	ラッサールの社会思想	森戸辰男
一〇月三〇日	国民健康保険問題	大林宗嗣
十一月四日	最近社会運動	後藤貞治
十一月六日	現代的富の矛盾	久留間鮫造
十一月八日	農村の政治的性格	大内兵衛
十一月十一日	地方財政交付金問題	大内兵衛
十一月十三日	インフレーションの展望とその社会問題	笠信太郎
十一月十五日	文献より見たる本邦社会思想の推移	内藤赳夫
十一月十八日	中間階級問題	権田保之助
十一月二十日	国際政治と社会問題	細川嘉六
十一月二十二日	資本主義の現勢	高野岩三郎
十一月二十五日	産業組合と反産運動	斎藤広

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

